

日本最古といわれる道後温泉
(仮称) 椿の湯別館

伝統工芸・県産品 × デザイン コラボレーション作品

「新たな温泉文化を発信する拠点として」



ロビー／山門シェード

ゼオライト和紙 (西予市) / 佐藤友佳理 (りくう)

自身が育った手漉き和紙の産地内子町五十崎にて、新しい手法の和紙「ゼオライト和紙」の製作をスタート。現在は西予市に工房を構え、製作に取り組む。空間の連なりをそのままに、内と外の境界をあいまいにするパーティションなど、独特の表現が国内外から高い評価を受けている。本施設ではエントランスロビーでお客様を迎える「山門」をテーマとしたシェードの製作を手がける。



ロビー／壁画

和釘 (松山市) / 白鷹幸伯・白鷹興光 (白鷹刃物工房)

日本の木造建築に使われてきた鉄釘であり、古代建築物の修復や復元に欠かせない材である「和釘」。全国的な職人の減少により和釘職人は貴重な存在となっており、高い技術を持つ興光氏の父白鷹幸伯氏は薬師寺、室生寺、平城宮大極殿など著名な国宝・重要文化財の修復・復元を手がけた。本施設では息子の興光氏がエントランスを飾る巨大な木版壁画を和釘で彩る。



ロビー／のれん

伊予かすり (松山市) / 白方興業株式会社

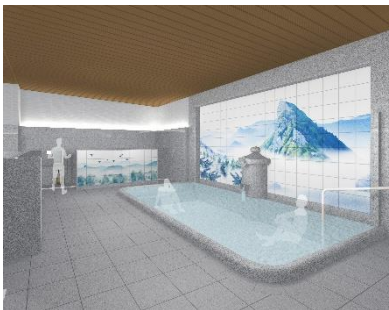
日本三大かすりの一つ「伊予かすり」。経糸・緯糸をあらかじめ染色し模様を織り出すことにより、かすれたように見える独特の風合いを生み出す。明治時代に日本一の生産量を誇ったが、現在は伊予かすり会館（白方興業）での生産のみとなっている。本施設では男女の浴室の入り口でお客様をお迎えする「のれん」の製作を手掛ける。



浴室／陶板壁画

砥部焼 (砥部町) / 山田ひろみ (きよし窯)

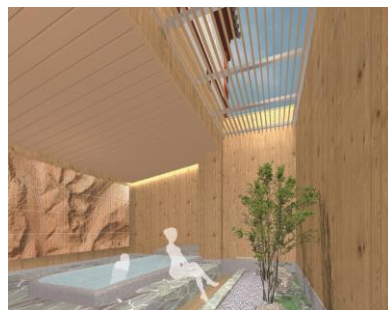
砥部町を中心に作られている磁器「砥部焼」。砥部町には100軒以上の窯元が伝統を守りつつ、近年では女性作家、若手作家が増え新たな風を吹かせている。山田ひろみ氏は砥部町唯一の国指定女性伝統工芸士であり、大小さまざまな作品を展開するなど幅広い活躍を見せている。本施設では男女の浴室の5.4m×2.7mに及ぶ巨大壁画を始め6面の壁画製作を手がける。



浴室／露天風呂壁面演出

暖ひのきデコラパネル (松山市) / 河野興産株式会社

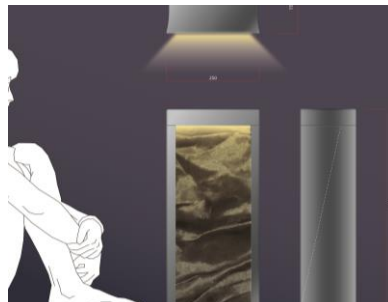
全国3位のヒノキ生産量を誇る愛媛県。そのヒノキをもっと暮らしに取り入れもらうため、従来の無垢材の問題点であった“割れ”の問題を解決し制作された「デコラパネル」。まるで自然の中にいるように暖ひのきのもつ色合い風合い香りを楽しめる。本施設では露天風呂という湿度が高く割れなどが発生しやすい厳しい環境の中で、デコラパネルによる露天風呂の壁面装飾を手がける。



浴室／行燈照明

菊間瓦 (今治市) / 菊地晴香 (株式会社菊銀製瓦)

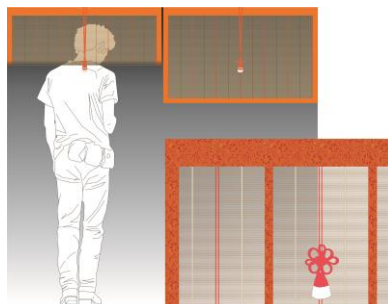
鎌倉時代に製造が始まったと伝えられる「菊間瓦」。いぶし銀に輝くことからいぶし瓦とも呼ばれ、その美しさと防水・耐寒性から松山城や道後温泉、京都御所や皇居においても使用されている。近年は安価な瓦の出現や瓦屋根家屋の減少により生産量は減少しているものの、アクセサリや日用品など新商品の開発にも積極的に取り組んでいる。本施設では浴室露天風呂に据える行燈の製作を手がける。



特別浴室／御簾

伊予箆 (新居浜市) / 井原圭子 (澁箆制作工房)

「箆」とは和紙をすくための道具。手すき和紙の盛んな地域でつくられ、愛媛で製作されたものを「伊予箆」と呼ぶ。「箆」はすだれより細い竹ひごと箆専用の糸を使って編み上げられる。繊細な手仕事のため、1つの箆を編むのにも長い時間を要する。本施設ではその技を活かし、特別浴室の浴室と和室を柔らかくさえぎる「伊予箆による御簾」の製作を手掛ける。



休憩室(大広間) / 天吊りシェード・ペンダント照明・濡れ縁照明

大洲和紙 (内子町) / 齋藤宏之 (株式会社五十崎社中)

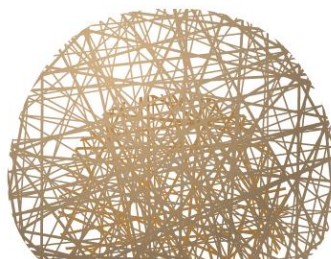
国指定の伝統的工芸品である「大洲和紙」。平安時代に書かれた『延喜式』にその記録が見られるほどの歴史をもつ。その大洲和紙とギルディング(金属箔)加工技術の融合により生まれたのが「ギルディング和紙」である。和紙のもつやさしく柔らかな表情とギルディング箔が放つ存在感が独特の表現を生み出す。本施設では「寿国」をテーマとした休憩室の天吊りシェードとランプシェードの製作を手がける。



休憩室(大広間) / 行燈照明

伊予竹細工 (松山市) / 西川静廣 (虎竹工房・西川)

道後温泉を訪れた聖徳太子が編み方を伝授したと伝説が残る伊予竹細工。型を使わず編んだ籠に、竹ひごを不規則に抜いて仕上げる「やちやら編み」が特徴とされる。熟練した技を持つ職人によって編み出される製品は、手作りの優しい風合いに満ちた品と高い評価を得ている。本施設では休憩室において寿国を演出する明かりとして行燈照明の製作を手がける。



休憩室(個室) / 壁画 (白鷺伝説)

伊予水引 (四国中央市) / 安藤加代子・村上三枝子・塘地陽子 (伊予水引金封協同組合)

長野県飯田市と並ぶ水引の二大産地である四国中央市。「伊予の水引」は平安時代の元結が起源とされる。すごいた(しなやかにした)水引を「結ぶ」「編む」「巻く」ことで様々な形の細工をつくり、これらを組み合わせることにより工芸品が作られていく。本施設では立体物を得意とする水引き職人が道後温泉に伝わる白鷺伝説をテーマに、水引細工の技を用いた作品を製作する。



休憩室(個室) / 壁画 (大穴持命・少彦名命の伝説)

筒描染 (八幡浜市) / 若松智 (地細工紺屋若松)

和紙でできた筒にもち米を糊にした防染糊を入れ、それを絞り出しながら手描きで模様を描く「筒描染」。糊で白地を残すのが特徴で、型紙では出ない線や輪郭が表現される。地細工紺屋若松は江戸末期から190余年の歴史を持ち、現在、祭礼装束、神社の紋幕や幟、辻織などの多岐に渡る作品を製作している。本施設では大国主命・少彦名命の伝説をテーマとしたオリジナル作品で個室の壁面を飾る。



休憩室(個室) / 壁画 (聖徳太子の碑文)

今治タオル (今治市) / 株式会社藤高

高縄山系の良質な水を背景に染色技術を発達させてきた「今治タオル」。現在では国内最大規模のタオル産地を形成している。その中で90年以上の歴史を持ち、その技術力でタオル業界を常にリードしてきた株式会社藤高。本施設では聖徳太子の来湯伝説をテーマに、タオルで世界初のフルカラー表現を実現した『五彩織り』の技術を用いて、今治タオルの新たな表現にチャレンジする。



休憩室(個室) / 壁画 (天皇の行幸 (舒明天皇・齐明天皇など))

桜井漆器 (今治市) / 渡邊修峰 (桜井漆器協同組合)

江戸時代後期に廻船問屋によってもたらされた桜井漆器。輪島や紀州黒江など漆器の先進地から技術者を集め全国の産地の良さを取り入れたとされる。良質な漆器を比較的、手頃な価格で手に入れることができるため、現在も多くの人から親しまれている。本施設では飛鳥〜平安時代にかけて多くの天皇が道後温泉を行幸されたことをテーマに、これまでにないサイズの作品づくりと新たな空間表現に挑む。



休憩室(個室) / 壁画 (伊予の湯桁の民謡)

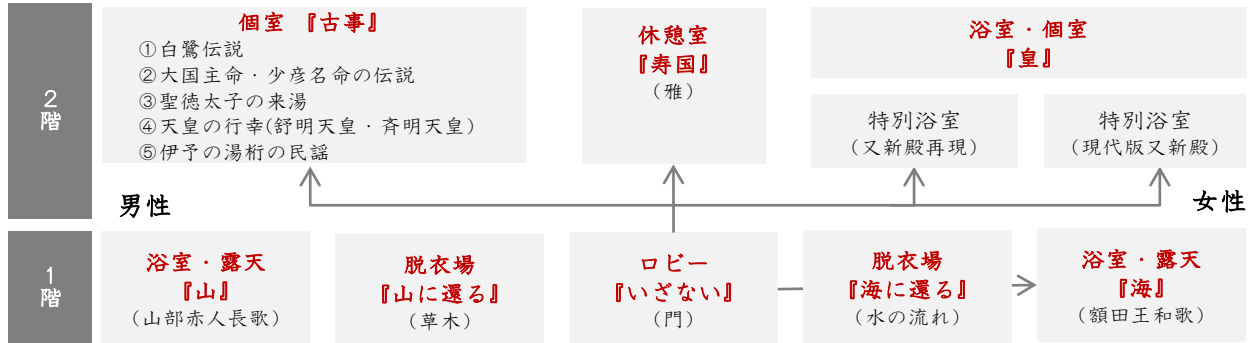
西条だんじり彫刻 (西条市) / 石水信至 (石水彫刻所)

毎年10月中旬に西条で行われる「西条祭り」とともに発展してきた「西条だんじり彫刻」。江戸時代が始まりと考えられており、石水氏はだんじりを手がけてきた棟梁の5代目。100種類もの彫刻刀を使い表現された花鳥、神話、龍などは、まるで生命を宿しているかのよう。本施設ではだんじり彫刻の技を用いて、源氏物語で道後温泉を「伊予の湯桁」として描写されていた当時を表現する。

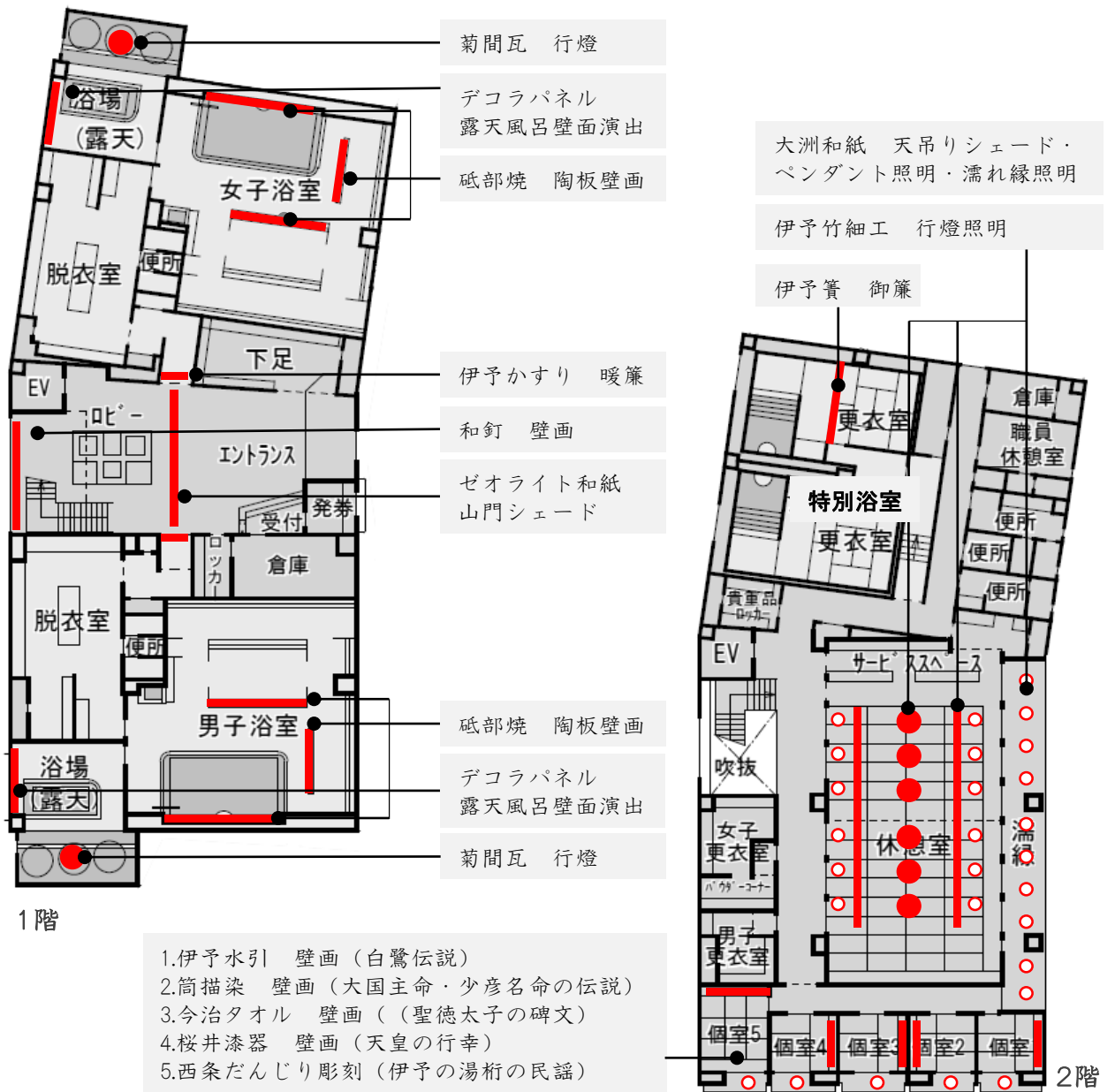


(仮称) 椿の湯別館 伝統工芸・県産品×デザイン コラボレーション作品

各空間テーマ



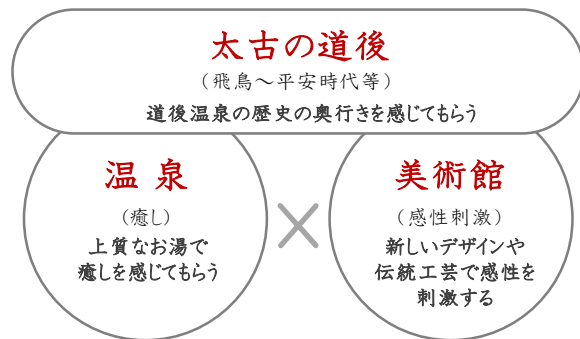
フロア図と展示品



道後のマインドを大切に 松山・愛媛にしかない唯一無二の歴史や伝統を トータルに演出し、魅力を伝える



コンセプト



- (仮称) 椿の湯別館は日本最古といわれる道後温泉にふさわしい、飛鳥時代の建築様式を取り入れた「湯屋」
- 施設のテーマは「新たな温泉文化を発信する拠点」。温泉による癒しに加え、伝統工芸・デザイン・アート等感性を刺激する要素を取り入れる
- 展示品は道後温泉にまつわる伝説や物語等をテーマに愛媛県の伝統工芸とデザイン・アートをコラボレーションした様々な作品で装飾。施設を訪れた観光客の方々に伝統工芸の魅力を知っていただくとともに、伝統工芸の活性化に向けた一翼を担う

取り組み体制

- 建築の基本構想は建築界のトップランナーである内藤廣東京大学名誉教授が、トータルコーディネイトは椿の湯周辺エリアの整備計画を担っている羽藤英二東京大学大学院教授が関わっている

道後のマインド：伊佐庭如矢の言葉



百年以上前、伊佐庭如矢 道後湯之町初代町長は
「道後温泉は日本一の名湯だから、それに相応しいものを建てる必要がある。百年たっても他所が真似の出来ないものを作っこそ、それが初めて物をいう。人が集まれば町が潤い、お百姓さんや職人さんの暮らしもよくなる」と強い志をもって道後温泉本館を建設した。これまで、たくさんの人によって培われてきた歴史や文化・志を、大切に受け継ぐことで、松山の人々・来訪者の方々の心にこの地の魅力を伝え、愛着を持っていただくことができると考えている。松山でしかできない・真似のできない唯一無二の空間を創出することで、松山・愛媛の魅力を次の百年先まで繋げたいと考える。